

長かった夏も終わり、徐々に秋も深まってまいりました。季節の変わり目となりますのでお風邪など召しませぬようご自愛くださいませ。

当社では、10月より65期を迎えます。ひとえに皆様のご支援、ご愛顧の賜物と心より感謝を申し上げます。

さて、65期は当社にとって、創業140周年となる大きな節目です。良質な石灰を多く産出する高知県で創業し、現在に至るまで、ひと波ひと波を着実に乗り越えて参りました。目的地である理想の港へたどり着くまで、井上石灰工業は初志貫徹の精神で挑戦の姿勢を崩すことなく皆様に喜ばれるものづくりを続けてまいります。今後ともより一層のご愛顧を切にお願い申し上げます。



井上通信



金折取締役の一言

今年の夏は、猛暑が続き、生産の現場においては厳しい夏となりました。しかし、ここ数年取り組んできた熱中症対策や計画的な操業休暇を通し、無事に生産を継続できており、日々感謝しながら仕事に取り組んでいます。短い秋が来、あっという間に年末へと足早に向かっていくと思いますが、一日の積み重ねを大事にしながら、安全に、安定した品質の製品をお届けするよう、皆で取り組んでまいります。



井上のお石灰な話

～ 土佐石灰の歴史 ～

高知県は石灰の鉱山を擁し、古くから良質で豊富に採れることが知られていました。この高知県の石灰の歴史は、どのようにして始まって発展していったのでしょうか。紐解いていきましょう。石灰の始まりは、貝を焼いて作る貝灰であり、石灰石から作る石灰はありませんでした。貝灰の製法は、今から430年ほど前、慶長の頃に山城国(今の京都府)より高知県へ伝えられました。ここが土佐石灰の歴史の出発点でした。石灰石を焼き、現在の石灰を得るようになったのは、150年後、享保の頃。2人の人物により高知の石灰の歴史が動きます。



このカッオは塩み試がぼっちり!


土佐の方言紹介

「ぼっちり」

ちょうと、びつたり、の意。

例えば、友人からもらった子ども服のサイズがびつたりだった時：「この前もろうた服やけど、サイズがぼっちりやった!」のように使用されます。

ほとんどの場合、満足感が高い時に使用され、マイナスの意味で使用されることはほとんどありません。もちろん、酒の肴とのマッチングが素晴らしい場合にも、ぼっちり、使いますー笑





7月28日(金)に発表された、山梨県主催の日本ワインコンクール2023にて「正光園シャルドネ2022」が銅賞をいただきました。

2020年に香南市山北地区へ定植した樹齢の若い樹からの収穫での入賞は、山北地区の石灰土壌の可能性と、不適地と言われた高知でブドウを栽培することへの明るい希望と、歴史ある産地のワインと同じ軸で評価されたという沢山の嬉しい気持ちでいっぱいです。2018年から棚栽培に切替え、ワイン専用品種であるヴィニフェラ種を中心に畑を増やしてきた事の結果がで始めました。2023年の醸造も始まりワイナリーは活気づいています。



井上ワイナリー だより